

今戸焼 干支人形

太鼓酉 たいこどり



かんげん

昔中国で、君主に対し諫言(目上の人の非をいさめること)しようとする人民に打たせるため、官庁に設けられた諫鼓(かんこ)と呼ばれる太鼓がありました。

かんこ

こけむ

この「諫鼓」が使われる事なく昔生して、その上で鶏が遊び佇む世は平和である事から生まれた諫鼓鶏(かんこどり)は、天下泰平の象徴でした。

この「諫鼓鶏」が山車となってお祭りに登場する東京の神幸祭、山王祭と神田祭は江戸時代から親しまれ、今も天下泰平を願い巡行されています。

平和で幸せな世を築いていこう、と江戸庶民と徳川幕府が天下泰平の願いを享受していた「諫鼓鶏」にあやかり、太鼓酉(たいこどり)と名づけ諫鼓を携えた親子酉の干支人形を作りました。

皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎